Ⅳ コンサート・マーチ「虹色の未来へ」／郷間幹男

◆Piccolo, Flute

まずこの曲は Es-dur でb系の作品ですので、左親指は基本的にずっとブリチアルディキーを押さえて吹いた方が楽だと思います。29 小節目 3 拍目からの Ob. Fl. Picc. E♭Cl. とのユニゾンは、跳躍含め合わせるのが難しいですが、ピッチばかりにこだわらず、まずそれぞれが楽に吹ける音量でのびのび吹き、チューナーで極端にピッチが悪い音をチェックし、ユニゾングループで練習してみましょう。ピッチにばかりにとらわれず、音楽的に歌って吹きましょう。Picc. も mp ですが、Fl. を超えない音量で吹くとバランスが取りやすいので、p くらいがいいかもしれません。1st Fl. の 47 小節目の 3 オクターヴ目の A♭の音は f で吹くとどうしてもピッチが高くなるので、右手の中指と薬指も押さえるとかなり安定するし音も鳴らしやすいです。90 小節目、93 小節目も同じですね。この替え指はかなりよく使うので、ぜひ覚えましょう。音程だけでなく、音も出やすくなりますよ。Picc. の 57 小節目最初の C と 59 小節目の D♭は聴こえにくくなりやすいので、タンギングと息のタイミングを合わせてはっきりと入ると聴こえやすくなります。60 小節目の tr. は左中指だけか、左薬指も一緒にあげるか、綺麗に聴こえる方を考えましょう。

◆Oboe

7 小節目 1 拍目の連符は 3 通り程パターンがあるので自分に合った物を選んでください。E♭は 2 つ共左手小指の替え指、F はフォーク F を推奨します。このパターンで転びそうになる場合は 2 つ目の E♭を意識すると改善出来るかもしれません。どの運指を選んでも、上手くいかない場合は焦らず出来るテンポから徐々に in Tempo へ近づけてください。付点のリズムに変えて吹いてみるのも 1 つの方法です。24 小節目は F、E♭（4 拍目裏を除く）共に左手小指の替え指が良いかと思います。46 小節目 1 拍目の E♭は短くならないよう、8 分音符分しっかり吹いてください。48 小節目の tr. は A♭の指のまま、中指だけ上げ下げすれば少ない動きで演奏出来ます。69 小節目の tr. は 68 小節目最後の音、D♭から右手小指をスライドさせて通常の E♭運指に移動し右手中指だけ上げ下げする方法、もしくは左手小指 E♭の運指で同じく右手中指だけ上げ下げする方法があります。71 小節目も同様に D♭から E♭に移る時に E♭の替え指を使うか、小指のスライドを行います。左手小指の E♭を選んだ場合 A♭のキィは右手人差し指で押すことになります。91 小節目の tr. は通常 E♭または替え指 E♭でスタートし、右手薬指だけを上げ下げすれば出来ます。

◆Bassoon

6 小節目からタイを伸ばし過ぎて 4 拍目の裏が遅れないように気をつけましょう。[C] からはフレーズ感をもって、2、4 拍目が大きくならない事は大切ですが 4 拍目から次の 1 拍目は大切に演奏しましょう。[D] アウフタクトからの stacc. はやり過ぎて音程がなくならないように気をつけましょう。30 小節目からは音程、音色を Euph. に合わせるように演奏してみましょ

う。[F] から 1 拍目を丁寧にして、3、4 拍目を少し軽くしてみましょう。64 小節目 3 拍目は 8 分音符に stacc. が付いていますが、乱暴にならないように気をつけましょう。

◆E♭Clarinet

ぱっと見、譜面だけを見ると『なぁんだ、これだけを f で吹けばいいのね！楽勝！』となりがちですが、スコアを見てみると、このフレーズは一番最初の Trp. のメロディーからずっと繋がってきて、E♭Cl. の動きはテンションの頂点であることが分かります。ゴージャスな 16 分音符の動きと tr. を目指しましょう。（但し、tr. の音量が他をパートの音量を超えないように！）8 小節目 3、4 拍目の 8 分音符はリズムが詰まりやすいので、落ち着いて演奏しましょう。[C] の 5 小節目で大事なのは前半の A♭→C→E♭の音型です。tr. のほうが大きくならないように！（でもテンションの高さは要ります！）25 小節目の上行音型は音色が『ビャー！！』と広がっていかないように注意しましょう。[D] の打ち込みは 8 分音符の stacc. と 16 分音符の違いを出すようにしましょう。29 小節目後半から出てくる mp のメロディーですが、奏の DVD では Fl. を主体にメロディーを作っています。ユニゾンなので、しっかり音程を合わせましょう。68 小節目の 16 分音符の上行系は Picc. Fl. Ob. E♭Cl. の 5 名しか吹いていないので、こんなに鳴らしても大丈夫かな?という位吹いても構いません。73 小節目の tr. は E♭の指にサイド・キィの上から 2 番目を押すようにしましょう。[J] はキラキラと存在感を出して、2 小節目の tr. はサイド・キィで D♭をとって、左人差し指と中指を同時に離しましょう。[K] の tr. は E♭の指にサイド・キィの上から 3、4 番目を押します。

◆B♭Clarinet

8 小節目 3、4 拍目は前からなだれ込んでしまわないように気を付けましょう。[B] からの旋律はどこにフレーズの山を持ってくるのか研究しましょう。メロディーの付点 8 分音符のリズムは 3 連符に聞こえないように。10 小節目 3 拍目や 12 小節目 3 拍目などこの曲にたくさん出てくる A♭は Cl. の構造上どうしても音程も音色も損なわれがちです。この音を吹く時は、前後の音の並びで無理がない限りは下管のキィをおさえて吹きます。22、23 小節目の 1 拍目 8 分音符は後ろに休符がありますが、スラーの中での休符なので短くなり過ぎないように、また音の切り方も気を付けましょう。十分に音価を保ってください。30 小節目からの音量バランスに気をつけましょう。[F] から全ての音が同じ音質になるよう F、G、A♭は特に気を付けましょう。71 小節目 3、4 拍目は冒頭同様、なだれ込まないように気を付けましょう。92 小節目も同様です。裏拍を感じて焦らず演奏しましょう。

◆E♭Alto Clarinet

冒頭 8 分音符の marc. は豊かな音で。8 小節目の ff も丁寧に演奏しましょう。[C] からは Ob. T.Sax. Euph. とのアンサンブルを楽しみましょう。[D] からの 8 分音符そして 16 分音符は重くならないよう注意しましょう。音量も mf なので頑張りすぎてかたくなりすぎないように。58 小節目からのフレーズ、そして 86 小節目は音の跳躍がありスラーをかけるのが非常に難しい部分です。息をどのように使うと良いのかゆっくりから練習し研究しましょう。

Concert March "Step to the Rainbow" / GOHMA,Mikio

◆B♭Bass Clarinet

格調高い雰囲気を持ったコンサート・マーチです。Grandioso の f＋marc. は乱暴な発音にならないよう注意して、1 つ 1 つの音にしっかり息を入れましょう。[B] 以降のベースラインは 4 分音符で書かれています。同じ動きの楽器で聴き合い、マーチらしい 4 分音符の形を研究し、揃えましょう。27 小節目などの付点 8 分＋16 分音符は 3 連符の形にならないよう、付点 8 分音符にスピードのある息を使いましょう。Trio からは穏やかなメロディーになりますが、String Bass は pizz. になりますので、その音型に揃えましょう。[I] は [F] と同じ音符ですが、St.Bass は [I] では奏法が arco になっています。

◆E♭Alto Saxophone

スラーの中の音程幅の大きな跳躍をきれいにつなげられる様に注意が必要です。特に 12 小節目の 3、4 拍目は左親指が鍵です。この指が遅くなるとうまく下の音へ移動出来ないので、必殺技として先に（半拍前等で）オクターヴ・キィを離してしまっても良いです。試してみてください。9 小節目 1 拍目の F 音はサイド・キィを使用する事も出来ます。E♭の運指に左手側サイドの真ん中キィを押して F 音を鳴らします。ただ、この運指が難しい場合は普通に奏しても問題無いです。その場合はしっかり F 音を押さえてから素早く指を離す事を意識しましょう。次の C 音への移動がよりスムーズな運指を選択してください。D♭音が多く出てくるので、意識して運指を使い分けると音の繋がりがスムーズになるでしょう。C の運指に右手サイド・キィの一番下を押す運指（R）と、D 音のキィとその下の小さなキィ（bis キィと呼びます）の 2 本を左手人差し指だけで押さえる運指（L）があります。工夫してみましょう。

◆B♭Tenor Saxophone

22 小節目の 2 拍目のリズムは弾まないように注意しながら演奏しましょう。25 小節目の音の処理ですが、伸ばしすぎないように 3 拍目の頭でしっかりと止めましょう！ 30 小節目からの 2 分音符は主旋律とのバランスを気にしながら演奏しましょう。33 小節目の音の処理も注意して後ろの 8 分休符を意識してください。66 小節目の 2 拍目、68 小節目の 2 拍目の 8 分音符は詰まらないように演奏してください。91 小節目の A♭の音の運指はサイド・キィ（A キィ＋右側サイドの Ta キィ）を使うと音程が安定しやすいです。

◆E♭Baritone Saxophone

6 小節目 E♭の音程が低い場合は G♯キィを押して音程の補正をしてください。その際 7 小節目 D♭の時に G♯キィを押したまま 8 小節目の C♭に進行する事も出来ます。[B] からの 8 小節は、例えば前半 4 小節、後半 4 小節に分けて考え、前半は 2 小節が 2 つの 4 小節で捉え、後半は 4 小節目を山に持っていく 4 小節という 8 小節のフレーズ感を持って旋律を運んでいってください。[C] も同様に。36 小節目 E♭は音程が高くなるので F♯キィと C キィを補正として足します。それでも高い場合は F や D のキーも押さえます。[F][G] からの 8 小節のフレーズは、例えば前半と後半の 4 小節のフレーズからなる 8 小節、或いは前半 4 小節で山を登って、後半 4 小節で下っていくような 8 小節、といったように様々フレーズ考え、合ったイメージで

Concert March "Step to the Rainbow" / GOHMA,Mikio

旋律を運んでいってください。66 小節目は音程が F は高く、C は低くなり易いので LowH のキィを補正で足したまま進行します。

◆B♭Trumpet

冒頭のファンファーレは marc. と Grandioso を両立させるアーティキュレーションを考えましょう。短くなりすぎず伸びやかに演奏したいものです。4 小節目の 2nd は全体が全音符を伸ばしている中、2 分音符で動きます。同じ動きをしている人は多くないので、重要です。22 小節目のアウフタクトからのスラーの付いているフレーズはレガートに演奏しましょう。22 小節目と 23 小節目の 1 拍目の 8 分音符の処理は、跳ねないように次の 2 拍目へ向かうように演奏しましょう。43 小節目からも同じです。Trio の 4 拍目からのファンファーレは 3rd、2nd、1st の順番で演奏します。流れに乗って華やかに演奏できるようにしましょう。56 小節目のファンファーレは mp ですが、小さい音を意識しすぎると音楽の流れや爽やかさが失われてしまうので気を付けましょう。[I] からは 1st だけですが、[J] アウフタクトからは 2nd、3rd も入ってきます。ユニゾンですので不自然に大きくならないように注意しましょう。87 小節目の 4 拍目から、3rd だけがハモりのパートになっているので、バランスに気を付けて演奏しましょう。

◆F Horn

1 小節目から 4 小節目は、重くならないよう Trp. のファンファーレにハーモニーを添えるように。4 小節目の 5 度のハーモニーを綺麗に響かせましょう。8 小節目のタイの後のタイミングをしっかり合わせましょう。19、21 小節目は付点のリズムがはっきり聞こえるようにはっきりと。22 小節目から 25 小節目はハーモニーを丁寧に作りましょう。34 小節目は Trb. の旋律と同じようにリズムをはっきりと付けましょう。[E] からの Euph. とのオブリガートは、旋律も同じ mf なので音量を超えないようにしましょう。47、48 小節目はハーモニーを響かせつつ、16 分音符がつまらないようにしましょう。[F] からのリズムは、シンコペーションを出しながらも 4 分音符の長さが短くならないように気をつけましょう。[G] からのオブリガートは Picc. の音量を超えないようにしますが、抑揚をつけて、61 小節目からはハーモニーも響かせましょう。66 小節目と 68 小節目の 2 拍目の 8 分音符はつまらないように気をつけましょう。73 小節目は低音パートの 8 分音符を聴いて、次の小節に入るタイミングを合わせましょう。90 小節目の 4 分音符は 91 小節目の Trp. の動きに繋がります。gliss. がたくさん出てくるので、思い切って演奏してください。全体的にアーティキュレーションにメリハリを付けるように演奏しましょう。

◆Trombone

冒頭のファンファーレは、堂々と演奏しましょう。4 分音符は少し長めに、8 分音符ははっきり演奏するとメリハリがつきます。1st は 4 小節目 3 拍目の音が変わるところでスラーがありますが、あまり意識し過ぎずはっきりと変わるようにしましょう。6 小節目の 2 分音符は場面の転換になりますから思い切って演奏しましょう。[C] からの裏打ちは軽快に、しかし和声感

Concert March "Step to the Rainbow" / GOHMA,Mikio

を失わないようにしましょう。[D] からのメロディーは ff ではありません。力強さは必要ですが、音色や音程を損ねないようにしましょう。8 分音符に stacc. の指示がありますが、短くしすぎると流れが悪くなります。自然な息の流れの中で、軽快さが出るように演奏しましょう。37 小節目の 3 拍目の 2 分音符に tenuto の指示があります。長さを保つというよりしっかり息を入れ込み充実したサウンドを目指しましょう。Trio の 2 小節間の 4 分音符は始めだけにアクセントの指示がありますが、テンポを作る重要なパートですので全ての音をはっきり、軽くならないように演奏しましょう。[G] や [I] などの伴奏系は Hrn. や Perc.、ベースラインとよく合わせましょう。3rd の 73 小節目の 8 分音符の動きは、ff かつアクセントがついています。低音パートとのバランスを考えながらしっかり吹きましょう。低音、特に Tuba と音色をいかにブレンドさせるかが課題です。

◆Euphonium

冒頭からしっかりと marcato で、決して音が平べったくならないように気を付けましょう。6 小節目から 4 分音符で F に上がった後、B♭に降りた時に音量が痩せないように。8 小節目の C♭の音は抜けにくい音で音程も上ずるのでしっかりとソルフェージュしましょう。また、この後にも何度も出てくる 2 分音符からタイで 3 拍目からの 8 分音符に繋がっている音型は、3 拍目頭までと、3 拍目裏からの新しいフレーズに分けて吹きましょう。(67、71、88、89、92 小節) [C] からのオブリガートは 2 小節で収めてしまわずに 4 小節で感じましょう。22 小節からの音型の1拍目の 4 分音符は弾まないように吹きましょう。[D] からの音型は 3 拍目からの 8 分音符から次の小節の頭の付点 8 分音符に駆け上がる感じで頂点を持っていき、その後の 16 分音符や 2 分音符、29 小節では D のタイの音は自然に抜きましょう。[G] からは Picc. の音を消さないよう少し控え目に歌いましょう。[H] からは Hrn. と吹き方を揃えて、66、68 小節目の 2 拍目 8 分音符が滑ったり突っ込まないよう注意しましょう。[I] からの 4 分音符の tenuto は「音の長さを保つ」と言う意味に捉え、真っ平らに吹くのではなく、marcato で短くならない吹き方ではどうでしょうか。ここも 3 拍目からの 8 分音符から次の小節の頭の付点 8 分音符に駆け上がる感じで頂点を持っていき、その後の 16 分音符や 2 分音符の音は強くなったり音を張らずに自然に抜きましょう。79 小節目からのスラーで 81 小節目の 1 拍目の音が短くならないように、81 小節目の 2 拍目からは次の [J] に向かう新たなフレーズとして捉えましょう。

◆Tuba

6 小節目のような [タイ+ 8 分音符 or 16 分音符] のパターンがこの曲には多く出てきます。タイの後の動きだしが遅れがちになってしまうので、タイは目一杯伸ばそうとせず動きだすタイミングを狙って入りましょう。9 小節目の 2 拍目裏拍は少しアクセントを付けて演奏すると、decresc. が効果的に出来ると思います。[B] 等の伴奏 4 分音符は音価分を正確に吹こうとせず、少し短く生き生きとしたフットワークの軽い音符にすると推進力が出て良いと思います。[D] の旋律に tenuto がありますが、重厚なサウンドにするあまり、引きずった tenuto にならないように注意しましょう。(※付点のリズムに関しては課題曲Ⅱをご参照ください。) [F]

Concert March "Step to the Rainbow" / GOHMA,Mikio

から最初 4 小節間の旋律は Cl. しか吹いていないのに対し、伴奏パートが多いです。バランスをよく考えて吹きましょう。また [F] ～ [H] 等のパターンは [3 拍目→4 拍目→1 拍目] と感じながら演奏すると推進力が出て音楽がスムーズに運べると思います。

◆String Bass

冒頭は音価を守りながら１つ１つの音をはっきりと。6 小節目はダウン・ダウン・アップで弾いていますが、弓を戻すのが難しい場合は弓順でもいいと思います。その場合は 16 分音符で弓を使いすぎないように、ダウンでもアップでも同じようにアクセントがつくように気をつけてください。[B] からはフレーズごとの 4 拍目から次の小節の 1 拍目への動きが出るように意識が必要です。4 分音符はタッタッと音を止めずにタンタンと少し余韻のあるマーチらしい音が出せるように処理しましょう。特にアップでの発音が遅れたり短くなりやすいので、アップもダウンも同じタイミングで同じ発音に出来るように練習してください。Trio からはメロディーが演奏しやすいように伴奏から前へもっていきましょう。85 小節目は第 3 と第 4 の中間ポジションでシフトせずに横でとります。

◆Timpani（Tambourine）

この曲では、4 小節目 3 拍目のように、音を残す指示が随所にありますが、ハーモニーの変わり目では消音するようにしましょう。多くの場合、1 番小さい Timpani よりも 2 番目に小さい Timpani の方が、E♭の音が綺麗に響きます。ペダリングによる音変えが多くなりますが、是非 3 台での演奏にチャレンジしてみてください。69 小節目のような音型では、ロールの出だしでアタックをつけた後、少し音量を抜く方が良いでしょう。Timpani が音量を張ったままだと、管楽器の細かい音型がかき消されてしまう恐れがあります。また 69 小節目から 73 小節目まで、Timpani は E♭のみですが、全体のハーモニーが変化していくことに意識をしてください。[D] の Tambourine は、ロールを交えたリズムの奏法は様々なものがあるので、自分にあった方法で練習しましょう。

◆Percussion 1（Snare Drum）

この曲では終始裏打ちをしています。Bass Drum や Cymbals をよく聴いて、打楽器セクションでしっかりリズムを定める練習をしましょう。また、表拍だけでなくメロディー・ラインも意識して演奏するとフレーズ感が生まれ、よりまとまりのあるリズム・セクションになります。6、7 小節目のロールと 16 分音符のリズムは、ロールの手数をあらかじめ定めて、いつも決まった手順で演奏出来るようにしましょう。その後に出てくる装飾音符も同様に手順を決めます。（今回の DVD 演奏では、3 拍目裏の装飾音符を RL で、4 拍目表を LR、裏を RL というように交互の手順で演奏しています。）[F] のリズムは、16 分音符が詰まりやすく、その後の 8 分音符が伸びやすくなります。頭の 8 分休符を正確に取ってリズムをキープしましょう。

◆Percussion 2（Bass Drum）

マレットはあまりヘッドが大き過ぎないものがおすすめです。ちなみに今回は Playwood

Concert March “Step to the Rainbow” / GOHMA,Mikio

の BD-30 を使用しました。27、29、35 小節目のために両手にマレットを持つか否か迷うところですが、今回はミュートの自由度が高い片手で演奏しました。もし両手でその部分を演奏する場合、膝などを使ってミュートしましょう。

◆Percussion 3（Crash Cymbals,Triangle）

Crash Cymbals はアクセントが付いていても鋭く硬い音色にならないよう注意しましょう。楽器をよく響かせ、伸びる音を鳴らす研究をしましょう。[E] から 46 小節目まで、[J] から 87小節目までは書かれている強弱よりも一段弱く演奏すると良いでしょう。1 拍目（強拍）、3 拍目（中強拍）を意識し、マーチの浮遊感を表現しましょう。Triangle は先行する Tambourine の流れに乗って軽やかに演奏しましょう。

◆Percussion 4（Glockenspiel,Xylophone）

8 小節目の Xylophone の 8 分音符は、速くならないように注意しましょう。29 小節目の Glockenspiel のメロディーは木管、42 小節目のメロディーは金管と同じ形なので、それぞれの相手の楽器を把握し、音色や音量バランス等の叩き方を変えると効果的でしょう。

Concert March "Step to the Rainbow" / GOHMA,Mikio